

## 来賓2人のご挨拶

### ●さやま市民大学学長 小山周三様

新旧2つの総会が終了して新しい「さやま市民大学同窓会」がスタートしたことへの祝辞と多方面で活躍されている会員の皆様への謝辞をお贈りいたします。



「さやま市民大学同窓会」と生みの親である「旧SSCC・元気大学・さやま市民大学」の関係について私の考えを話しますと、1)親と子の関係は「甘えの関係」より「自立した関係」となることで本物の関係となる 2)お互いに「緊張感」を持って進んでいくことが双方にとってプラスとなる――。

ぜひ「市民大学がやれないこと」もやって頂きたい。そして、市民大学の卒業生が同窓会に入りたいと思うような受け皿となるよう期待しています。大学としても卒業生に同窓会への声かけをするつもりでいます。何か必要なことがあれば助力は惜しまないでやりますので、ご健闘を期待いたします。

### ●NPO法人さやま協働ネット代表理事 毛塚宏様



さやま協働ネットの主な業務は、「さやま市民大学」の運営と市の活性化につながるまちづくり支援ですが、同窓会とも連携して事業を進めたいと考えています。

以前、狭山ケーブルテレビで地域活動についてお話しをした際に、モットーは何ですかと問われ、「育縁拓町」と語ったことがあります。地域活動を通じて縁を育み、その縁を活かしながらまちづくりに取り組んでいきたいという想いからです。

その意味で同窓会は、縁を培っていく貴重な場であると同時に、まちづくりの原動力となり得る場ではないかと思えます。益々のご発展をご祈念申し上げます。

## 会長就任挨拶 諸井寿夫

### 「存在感」を一層高め、更なる発展に邁進したい

大変な重責と痛感いたしておりますが、微力ながら職務を遂行していく所存です。

さて、この「さやま市民大学同窓会」は、狭山市の団体としてはかなり大きな部類に属すると思えますが、この「存在感」を一層高めることが必要と思っております。この存在感、つまりプレゼンスをより高めていくことが重要で、市民の皆さんから期待され、頼られるような団体へ更なる発展をと念願しております。



市民大学の修了生は多岐にわたり、経験、知識、技術をお持ちの人材が多くおられます。そんな会員に活躍の場を広げていただくために、「どのような人材がおられるのか」、「どのようなことが出来る

のか」を明確にするために、そのシステムを作りたいと思っております。「人材データバンク」と呼ばれていますが、他の諸団体で管理されているものと連結（リンク）出来ればもっと効果大と思います。

学校支援ボランティアセンター（SSVC）は、全国的にも知られてきています。政府もアクティブシニア（「団塊の世代」）への関心が深く、先日も文部科学省から講演の招聘があり、活動内容を全国に発信いたしました。

クラブ活動部会はクラブ数も14となり、各方面での地域の連携も出来ており、益々の活躍を期待しています。直近では、ウォーキングクラブは今秋狭山市で行われる大きなウォーキングのイベントに協力し、また、グリーンクラブは東京オリンピックも視野へ入れた活動をするなど、行政の施策である協働の観点を考慮した活動の展開をしていきたいと思っております。

東京都健康長寿医療センター研究所のデータによれば、社会参加の有無はシニアの健康状態に大きく影響するとのこと。つまり、シニア自身にとって積極的に社会参加することが様々なメリットがあります。

さやま市民大学同窓会は「さやま市民大学」および「NPOさやま協働ネット」との連携を基に、更なる発展に邁進したいと考えています。皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。